

第21回

# 水俣病 記念講演会

いつも  
誰かがいた



水俣病患者の母・仲村妙子と近所に買い物に出る中学生の美智子。大阪府大東市にて

Photo by Jin Akutagawa 1979

講演

夏田美智子

水俣病患者

高峰 武

ジャーナリスト

森 達也

映画監督

中島岳志

政治学

司会

村上美香

アナウンサー

2025年4月26日(土)午後2時30分～6時(2時開場)／くまもと森都心プラザ

主催：水俣フォーラム／共催：グリーンコープ・熊本日日新聞社／後援：熊本県・熊本市・水俣市・熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・西日本新聞社・共同通信社・時事通信社・NHK熊本放送局・熊本放送・熊本県民テレビ・熊本朝日放送・テレビ熊本・エフエム熊本／入場料(録画配信とも)：一般=当日2000円、前売1500円／30歳以下=当日1500円、前売1000円／全席自由

▶ YouTube 録画配信申込みはこちらまで [kinenkouenkai21.peatix.com](https://kinenkouenkai21.peatix.com)

**開催にあたって** 1956年5月1日に発生が報告されて以来半世紀、水俣病は日本が強引に近代化を進める中で巻き起こされたために、またあまりに悲惨であったために、現在もなおこの社会を鋭く問うています。さらに今日に至っても新たな患者からの認定申請がつづき、被害者の総計は20万人とも30万人とも言われています。このような中で水俣フォーラムは、水俣病事件の今日的な意味を発見し、その教訓を語り継いでいくために、水俣病発見の日になんだ記念講演会を毎年開催してきました。初の熊本開催となる今回は、グリーンコープ、熊本日日新聞社との共催で「いつも誰かがいた」をテーマに、水俣病から現代を考えます。



**夏田美智子** なつだみちこ

水俣病患者家族。1965年東大阪府に生まれる。72年母・仲村妙子と兄・昭一、患者認定を申請。検診のため母の実家・水俣市丸島に半年滞在し魚介類を多食。74年兄の認定申請棄却に対する抗議活動のため母兄と1年間在京。76年ころよりシビレなどの症状を自覚。79年母、認定される。家を失った7人を養育し、93年より出所者らの就職に努め、現在、清掃請負業を営む。



**高峰武** たかみねたけし

ジャーナリスト。1952年熊本県に生まれる。68年済々養高校入学。水俣病に関心を持つ。71年早稲田大学入学。「水俣病を告発する会」に参加。76年熊本日日新聞入社。社会部長、論説主幹などを歴任。2020年熊本学園大学特命教授となる。22年『検証・免田事件[資料集]』で日本記者クラブ特別賞。著書に『水俣病を知っていますか』『8のテーマで読む水俣病』など。



**森達也** もりたつや

映画監督、作家。1956年広島県に生まれる。立教大学卒業後、テレビ番組制作会社に入社。97年オウム真理教が題材の映画『A』を制作、論議を呼ぶ。2001年続編『A2』が山形国際ドキュメンタリー映画祭で特別賞・市民賞。11年著書『A3』で講談社ノンフィクション賞。23年自身初の劇映画『福田村事件』で各賞。主な監督作品に『FAKE』『i-新聞記者ドキュメント』など。



**中島岳志** なかしまたけし

政治学。1975年大阪府に生まれる。京都大学大学院修了。近代における日本とアジアの関わりを研究し、2005年『中村屋のボース』で大佛次郎論壇賞。06年北海道大学准教授となる。13年初めて水俣を訪問し緒方正人、石牟礼道子らの話を聞く。16年東京工業大学(現・東京科学大学)教授となり、講義で水俣病に取り組む。『秋葉原事件』『親鸞と日本主義』ほか著書多数。



**村上美香** むらかみみか

アナウンサー。1971年熊本県に生まれる。93年熊本大学文学部丸山定巳ゼミの水俣調査に参加。94年同大卒業後、熊本県民テレビに入社。97年平日夕方の「テレビタミン」で人気キャスターとなり、以後21年務める。2017年胎児性患者らが40年ぶりに再主催の石川さゆりショーで司会を務め、その縁により翌年に水俣で講演。「水俣病展2017」オープニングセレモニーで司会。18年独立。

**水俣病ブックフェア**  
同時開催

ノンフィクションはもとより小説、写真集、文庫、新書、絵本など、水俣病に関する書籍130点を一堂に集めて販売します。

**これまでの水俣病記念講演会の開催とテーマ**

- 1996年 東京 「水俣の事実は現代日本に何を語るのか」
- 1999年 東京 「私たちは何を失ったのか、どこへ行くのか」
- 2000年 東京 「水俣病と現代社会の加害と被害を考える」
- 2001年 東京 「この日本に生まれて」
- 2002年 東京 「自然からの剥離の中で」
- 2003年 東京 「分断と交感を生むもの」
- 2004年 東京 「改めて原点から考える」
- 2005年 名古屋 「社会という幻影」
- 2006年 東京 「新たな50年のために」

- 2007年 札幌 「生命へのまなざしを問われて」
- 2008年 東京 「目を開き、耳をすまして」
- 2009年 北九州 「崩壊と蘇生の間で」
- 2010年 東京 「逆照射される私たち」
- 2012年 東京 「人間存在の極限に」
- 2013年 福岡 「花を奉る」
- 2014年 東京 「ともに生きていく」
- 2015年 東京 「いま、人として」
- 2016年 東京 「祈るべき 天と思えど 天の病む」

- 2016年 東京 「地の低きところを 這う 虫に逢えるなり」
- 2016年 東京 「われもまた 人げんの いちにんなりしや」
- 2017年 福岡 「何を失ったのか」
- 2019年 東京 「民を棄てる国」
- 2021年 東京 「天のくれらすもん」
- 2023年 京都 「歯止めとしての記憶」
- 2024年 東京 「それでも笑顔があった」

**これまでの出演者**

【患者】	川本愛一郎	仲村妙子	池澤夏樹	上田紀行	鎌田慧	C.W.ニコル	土屋恵一郎	原一男	森まゆみ	【司会】	落合恵子	斎藤季夫	長倉洋海
生駒秀夫	佐藤英樹	原武千潮	石牟礼道子	上野千鶴子	栗原彬	成元哲	鶴田和仁	原田正純	柳田邦男	いとうせいこう	上條恒彦	澤地久枝	P・バラカン
諫山茂	杉本栄子	吉永理巴子	磯崎新	内橋克人	崔洋一	高橋源一郎	鶴見俊輔	日高六郎	除本理史	大石芳野	木村友祐	下村健一	平田オリザ
緒方正人	杉本雄	【講師】	井上ひさし	大岡信	最音悟	立岩真也	富樫貞夫	丸山定巳	吉井正澄	大倉正之助	小島慶子	高橋長英	本間千枝子
緒方正実	杉本肇	阿部謹也	色川大吉	岡本達明	斎藤美奈子	田中優子	中村桂子	三砂ちづる	米本浩二	荻上チキ	小松原織香	田口ランディ	蓮舫
小笹恵	中原八重子	網野善彦	宇井純	加藤典洋	佐高信	筑紫哲也	萩尾望都	森岡正博	若松英輔	奥田愛基	小宮悦子	竹下景子	

**会場チケット発売中** ※未就学児のご入場はご遠慮下さい。

- チケットぴあ系列のセブンイレブンとファミリーマート、ローソンチケット系列のローソンとミニストップで前売券をお求めになれます。いずれも手数料がかかりますが、店頭での端末操作を簡単にする**チケットぴあ**のPコードナンバーは「656-147」、ローソンチケットのLコードナンバーは「83464」です。なお、ファミリーマートでの購入は、チケットぴあ Web サイトで申込み後の店頭受け取りとなります。
- お求めやすい4枚つづり前売券は、一般5000円、30歳以下3000円です。下記の方法でお申し込み下さい。
- 郵送をご希望の方は、郵便局備え付けの郵便振替用紙をご利用いただき、口座番号欄に「00120-4-398614」、加入者名欄に「水俣フォーラム」、通信欄に「記念講演会前売券希望」とご記入のうえ、券種・枚数を明記してご送金下さい。ご入金を確認次第、チラシ・チケットをお送りします。なお郵便振替用紙でのお申し込みは、4月14日(月)の受付印で締め切らせていただきます。
- 前売券、当日券とも全席自由席となっていますので、お早めにお越し下さい。

**録画配信視聴受付中** 視聴期間は講演会2日後の4月28日(月)の夕方から5月31日(土)23時59分までです。

- YouTube 配信での視聴です。  
[kinenkouenkai21.peatix.com](https://www.youtube.com/watch?v=kinenkouenkai21) にアクセスして、チケットをご購入下さい。



**【会場】くまもと森都心プラザ**

TEL : 096-355-7400

- JR 熊本駅白川口(東口)より徒歩約3分
- 熊本市電 A 系統熊本駅前電停下車、徒歩約3分
- 熊本駅前バス停下車、徒歩約3分

この講演会は、熊本大学人社会系国際研究センター学際領域、熊本県保険医協会、人間学研究会、連合熊本、熊本県高等学校教職員組合、熊本市仏教連合会、浄土真宗本願寺派熊本教区、熊本同宗連、創価学会平和委員会に協賛いただきました。

